

## 平成28年度事業実績

本プロジェクト(2016)では、まず第一に、当事者ソーシャルワーカーの養成を目指し、聴覚障害をもつ学部および通信科の学生の授業に質の高い情報保障、すなわち手話通訳・パソコンテイクを提供した。(本事業からの支出は卒業要件の単位になる授業に限っている。)第二に、ろう者の母語である日本手話でろう者の教授陣が直接授業を提供した。これはろう者のみが教える日本で唯一の正規のコースであるため、他大学の学生も単位互換制度を使って受け入れている。第三に情報保障付き授業とろう講師の手話による授業の二本立てでろう・難聴の高校生のための進学支援を行った。

本年度は本学は過去最高の5名の学部新生を迎えた。その中には本学初のろう当事者介護福祉士となる学生がいる。また本年度は、ろう・難聴の高校生の塾出身の学生が初めて卒業年度を迎えた。本年度のろう・難聴の卒業生三名のうち二名が社会福祉士国家試験に合格し、健聴学生の合格率を上回った。このうちの一人は、本プロジェクトのろう・難聴の高校生の塾出身者である。また年度末にはさらに記録を更新する数の新生が合格した。また本事業外で本学独自の文科省BP(ブラッシュアッププログラム)「コミュニケーションバリアフリー課程」を設置した。この課程により、大学での情報保障のできる支援者を本学の中で養成することになった。この課程の中には「ろう通訳者」(アメリカなどで発祥した盲ろう支援や、リレー通訳で活躍する手話を母語とするろう当事者の通訳者)の養成もあり、本事業により勉学を続けているろうの学生が「ろう通訳者」を目指してこの課程の授業に参加した。

また大学院社会福祉研究科博士前期課程では昨年、初の日本手話による修士論文提出を受理し、ろうの修士を輩出したが、来年度入学予定者として2名(うち一名は盲ろう者)が修士課程に合格した、専門職大学院にも1名(本学学部卒業生)聴覚障害者が合格した。

### 1. 事業1「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス(一部清瀬キャンパス)にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。受講者は一昨年始まった「日本手話」を科目とする聴覚障がい者入試で合格した学生等が、一年次から積極的に受講した他、二年次以上の学生や単位互換制度を利用した他大学の学生、また聴講生として社会人も受講した。

年間開講予定科目20のうち、上半期は13科目開講した、受講生はのべ68名であった。下半期は7科目開講し、受講生はのべ148名であった。外部からのろう受講者は28名、学内のろう学生の受講者は8名であった。ろう学生にとって母語で教育を受けられるという非常に大きな意義のある講座となった。

### 2. 事業2 学内支援

#### (1) 社会福祉学部等の授業における情報保障者の提供

学部では過去最高の5名の聴覚障害の学生が入学し、情報保障の支援者が足りなくなるのではないかと心配が絶えずあったが、学生の履修を制限することなく支援者が確保できた。この情報保障は、ノートテイク、PCテイク、手話通訳で、対象学生は、学部一年生5名、二年生4名、三年生1名、四年生3名、大学院博士後期課程1名、大学院修士課程1名、社会福祉主事養成課程1名、計16名であり、支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティン

グを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。そのため、外部の通訳者も活用した。学生支援者は約 50 名が協力の登録をしている。

#### (2) 社会福祉主事養成課程スクーリングでの通訳者の提供

通信課程については、6月・12月・2月に行われてスクーリングでは、高度な内容を考慮し、活動経験の豊富なパソコンテイクに支援をお願いした。

#### (3) 情報保障者養成の実施

養成の事業としては、経験者の学生による講習会を年間で 15 回（合計 46 時間）実施した。また、外部の講師を招いての講習会を 7 回（合計 30 時間）実施した。また学内の学生はふらりとプロジェクト室を訪れても、テイクの練習ができるような雰囲気と体制をつくっている。5 年前数名から始めたパソコンテイクは現在 49 名の登録者があり、そのうち 15 名以上が常時活躍している。

#### (4) ろう・難聴スペシャルデーの開催

8月27日・28日、聴覚障害をもつ受験生のためのオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。手話通訳・パソコンテイク付きの進学相談や、支援者および聴覚障害の在 student と高校生やその保護者たちとの交流会も開催した。昨年度に引き続き「ろう・難聴高校生の学習塾」の広報も兼ねて、「出張・ろう難聴高校生の学習塾」として、学習塾の講師を 2 名招いて高校生に学習塾の授業を体験してもらった。また、ろう LGBT 当事者（昨年 の 修 士 号 取 得 者）の 手 話 による講義も、読み取り通訳・パソコンテイク付で開講した。プロジェクト室にはろう文化を紹介した書籍やDVDの紹介コーナーも設けた。2日間、聴覚障害の学生・保護者らにキャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。今年度はろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も参加した。在学中の聴覚障害学生も参加し、高校生へのアドバイスや、大学紹介をしてくれた。

#### (5) オープンキャンパスでの支援実施

大学で毎年実施するオープンキャンパスでも、来場者の希望するプログラムに手話通訳・PC通訳を配置した。各回数名の来校者がいた。プロジェクト室のスタッフは必ず出勤し、聴覚障害をもつ高校生の急な参加にも対応できるようにした。昨年度に続き、ろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も来校し、そのうち 2 名は実際に入試を受験し、1 名が合格した。

#### (6) 国家試験対策講座

当事者ソーシャルワーカーの養成として、手話による社会福祉士国家試験の対策講座を 10 月 29 日～12 月 17 日の期間、毎週土曜日に全 8 回開講した。受験を控えた 4 年生だけでなく、1～3 年生も受講した。また本学学生だけでなく、他大学の学生なども数多く参加し、合計 12 名が参加した。さらに、本学学生を対象とした直前対策を 1 月 16 日・20 日・23 日・24 日・25 日・26 日の 6 回開講した。

本学 4 年生 2 名が社会福祉士国家試験に合格した他、学外からの参加者からも合格の報告があった。

### 3. 事業3「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。1学期・2学期・3学期に加えて、夏期講習、冬期講習・春期講習を開講した。

1学期は5月20日～7月15日の毎週金曜日、全9回開講し、30名が参加した。夏期講習は8月8日・9日・17日・18日の4日間開講し、30名が参加した。2学期は9月30日～11月18日の毎週金曜日、全8回開講し、31名が参加した。冬期講習は12月16日・23日・1月6日・13日の4日間開講し、29名が参加した。3学期は1月20日～3月10日の毎週金曜日、全8回開講し、29名が参加した。春期講習は3月17日・19日・24日・26日の4日間開講し、24名が参加した。

- 1学期：5月20日（金）～7月15日（金）毎週金曜。9週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:30	英語基礎		国語標準	数学標準	英語標準	国語受験		数学標準
19:50-21:20	英語標準	英語受験	国語基礎	数学基礎	英語受験	国語標準		数学標準

- 夏期講習：8月8日(月)・9日(火)・17日(水)・18日(木) 4日間。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス			
8月8日	18:00-19:30	英語標準	国語標準		英語標準	国語受験	国語基礎	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	英語基礎	国語受験	数学標準
8月9日	18:00-19:30	英語標準	国語標準		英語標準	国語受験	国語基礎	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	英語基礎	国語受験	数学標準
8月17日	18:00-19:30	英語標準	国語標準		英語標準	国語受験	国語基礎	
	19:50-21:20	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	英語基礎	国語受験	数学標準
8月18日	18:00-19:30	英語標準	国語標準	数学基礎	英語標準	国語受験	国語基礎	数学基礎
	19:50-21:20	英語基礎	国語基礎	数学標準	英語受験	英語基礎	国語受験	数学標準

- 2学期：9月30日（金）～11月18日（金）毎週金曜。8週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス				
18:30-19:40	英語受験	英語受験	国語標準	数学基礎	英語受験	国語基礎	国語受験		数学標準
19:55-21:05	英語標準	英語基礎	国語受験	数学標準	英語標準	英語基礎	国語受験	国語受験	数学基礎

- 冬期講習：12月16日（金）・23日（金）・1月6日（金）・13日（金） 4日間。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス					
12月 16日	18:30-19:40	英語 受験	英語 標準	国語 受験	数学 基礎		英語 受験	国語 基礎	国語 受験	数学 標準	
	19:55-21:05	英語 受験	英語 基礎	国語 基礎	数学 標準	英語 標準	英語 標準	英語 基礎	国語 受験	数学 基礎	国語 受験
12月 23日	18:30-19:40	英語 受験	英語 標準	国語 受験	数学 基礎		英語 受験	国語 基礎	国語 受験	数学 標準	
	19:55-21:05	英語 受験	英語 基礎	国語 基礎	数学 標準	英語 標準	英語 標準	英語 基礎	国語 受験	数学 基礎	国語 受験
1月 6日	18:30-19:40	英語 受験	英語 標準	国語 受験			英語 受験	国語 基礎	国語 受験	数学 標準	
	19:55-21:05	英語 受験	英語 基礎	国語 基礎	数学 標準	英語 標準	英語 標準	英語 基礎	国語 受験	数学 基礎	国語 受験
1月 13日	18:30-19:40	英語 受験	英語 標準	国語 受験	数学 基礎		英語 受験	国語 基礎	国語 受験	数学 標準	
	19:55-21:05	英語 受験	英語 基礎	国語 基礎	数学 標準	英語 標準	英語 標準	英語 基礎	国語 受験	数学 基礎	国語 受験

- 3学期：1月20日（金）～3月10日（金）毎週金曜。8週。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス				
18:30-19:40		英語 受験	英語 標準	国語 基礎	数学 基礎	英語 受験	英語 標準	国語 受験	国語 基礎	数学 標準
19:55-21:05		英語 標準	英語 基礎	国語 標準	数学 標準	英語 標準	英語 基礎	国語 受験	国語 標準	数学 基礎

- 春期講習：3月17日（金）・19日（日）・24日（金）・26日（日） 5日間。

		ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
17日	18:30-19:40	英語標準	英語基礎	国語基礎	数学基礎	英語標準	英語標準	国語基礎	数学標準
	19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎
19日	18:30-19:40	英語標準	英語基礎	国語基礎	数学基礎	英語標準	英語標準	国語基礎	数学標準
	19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎
24日	18:30-19:40	英語標準	英語基礎	国語基礎	数学基礎	英語標準	英語標準	国語基礎	数学標準
	19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎
26日	18:30-19:40	英語標準	英語基礎	国語基礎	数学基礎	英語標準	英語標準	国語基礎	数学標準
	19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語標準	英語基礎	国語標準	数学基礎

1学期・夏期講習は昨年度に引き続き1コマ90分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語の授業を開講した。会場としていた新宿の貸し会議室取り壊しに伴い、2学期以降は新宿三丁目に会場を変更した。参加する受講生の都合を考え、開始時間を30分遅くして、授業を1コマ70分とした。授業時間が減った分、家庭学習の課題を多くするなど工夫した。

引き続き中学3年生も受け入れ、高校進学指導も行った。一般入試を受験する受験生も複数いたため、冬期講習も受験指導を行った。

大学進学希望の受験生は10名で、8名が大学に合格し、進学した（残り2名は人することになった）。今年度も受験生の中に中学3年生から学習塾に参加している受講生が4名おり、学習塾での指導の成果が出ていると思われる。また、受験生にろう学校の生徒も多く、ろう学校から着実に大学進学者を輩出できていると言える。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2016年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
武蔵野大学	1名	聖学院高校
東海大学	1名	中央ろう学校
筑波技術大学	1名	坂戸ろう学校
日本社会事業大学	1名※	小川高校
法政大学	1名	井草高校
明治学院大学	1名	中央ろう学校
目白大学	1名	中央ろう学校
立正大学	1名	共栄高校

※この1名の他、地方の高校に在籍し、夏期講習のみ参加した2名も日本社会事業大学に進学した。

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。入塾は中学3年生からとしているが、中学1年生・2年生からの問い合わせも多い。昨年度同様、中学生であっても高校生よりもレベルが高い場合もあり、学習レベル・年齢が多様化している。

1年を通して参加受講生も多く、希望のクラス形態（手話クラスか情報保障付クラスか）や希望科目、レベルが多様で、講師・教室不足が課題となっている。

都内の高校の他、埼玉県・神奈川県からも生徒が通ってきている。

また、今年度はろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も通塾し、盲ろう通訳を用意するなど、より多様な支援を行うことになった。

受講生の年齢・レベルが多様化する中で、限られた予算でいかに時間割を作成し指導にあたるかが課題である。

人数が増えているのは情報保障付きクラスについても同様で、予算や設備の関係で個別指導の場合にはPCテイクを付けずに授業をするというケースもあった。今後も希望者全てにPCテイク付の授業を用意することは難しい。

課題もあるが、問い合わせ・受講生の増加はそれだけニーズがあるということの表れであり、一人一人のレベルに合った指導を今後も続けていきたい。

学習塾は基本的に高校生向けであると説明をしているが、中学生以下のろう児の保護者からの問い合わせも急増している。また、学習塾に通えない地方の高校生からの問い合わせも多く、対応を考えたい。

## 総括

社会福祉学部は過去最高の5名の合格者を迎えた。

2013年度以来、入試への「日本手話」の導入を行い、その入試で入学した学生がインドネシアおよびベトナムの聾学校等で研修を行った（自己資金）。新一年生5名の中にはろう学校出身者や大学で失聴し、聴覚障害支援がよいという理由で前大学を退学し、本学を受験してきた学生もいる。皆手話のできる聴覚障害当事者ソーシャルワーカーやろう学校の教員を目指している。

当事者ソーシャルワーカーの養成として重要な国家試験対策は他大学からもニーズが高いため、秋から毎週開催し、直前対策講座も情報保障つきで実施した。その成果として3名の卒業生のうち2名が合格、健聴者の学生よりも高い合格率を示した。

支援者養成としては、日本初の専門家養成課程「コミュニケーションバリアフリー」（自己資金）が文科省にBP（ブラッシュアップ・プログラム）として認可され、本プロジェクトで勉強しているろう者の学生も参加した。このBPは第一期生を送り出した。その卒業生の中から、在学中のろう学生を含め、あらたな本プロジェクトの支援者が生まれた。

さらに学部の入試において多様な聴覚障がいをもつ学生を受け入れられる体制が整ったため、2016年度末には過去最高の学部生6名（うち編入生1名、盲ろう者1名）が2017年度新入生として合格し、記録を更新した。また大学院社会福祉研究科博士前期過程に2名（うち一名は盲ろう者）が、専門職大学院に1名（本学学部卒業生）の聴覚障害者が合格した。

本事業外で本学独自に設置した文科省BP（ブラッシュアッププログラム）「コミュニケーションバリアフリー課程」により、大学での情報保障のできる支援者を本学の中で養成することになった。この課程の中には「ろう通訳者」（アメリカなどで発祥した盲ろう支援や、リレー通訳で活躍する手話を母語とするろう当事者の通訳者）の養成もあり、本事業により勉学を続けているろうの学生が「ろう通訳者」を目指してこの課程の授業に参加した。